

甦る「烏城紬」

「烏城紬」



烏城紬は、今から約200年前、江戸時代に岡山藩で生まれた織物。品質の高さで好評を博し、藩の財政に多大な貢献をしました。

現在、伝承者は須本雅子さんただ一人。一度廃れたかに見えた織技法を、地道な研究の末、今に甦らせる大きな仕事を成し遂げられました。大変幸運なことに、1995年より岡西公民館主催講座で須本さんが後進の育成に当たってくださっています。

2008年、講座修了者と受講生たちは、強い意志と行動力で、資金を出し合い、「烏城紬伝承館」を開館するという快挙を達成しました。「無ければ創る」という理念の下、講座生たちはさらに高い技術を伝承館で磨いています。また、烏城紬発祥の地である灘崎でも2010年に復活しました。須本さんや公民館の呼びかけで、織機の寄贈もあり、たくさんの方が作品づくりに励んでいます。

今後は、上質な手織りの風合いを、県内外、国内外に紹介したいとの意気込みです。

岡西公民館 p42 map 10

灘崎公民館 p42 map 27

後継者が育ち、技術が伝えられていくことを願って

ESDに
参加して!

私は、烏城紬第四代継承者として、現在、自宅の工房と岡山市内の公民館2ヶ所で後継者の指導育成にあたっています。

1人でやっていたのではいつかは消えてしまう大切な烏城紬の伝統を守るために、公民館で烏城紬の講座を始めました。烏城紬は長く習っていただかないとすぐに出来るものではありません。多くの工程を1人でやっていく、これは大変な作業で染は特に力仕事です。

岡西公民館で続けていましたら、多くの人に知っていただくことになり、やがて発祥の地である灘崎の方々にも伝わりました。灘崎公民館では、地元の方々によりご厚意の寄付金まで協力をいただき、祖父が考えていたよ糸紡機も作っていただきました。祖父は宗津(灘崎)で生まれたので、烏城紬発祥の地灘崎で機織の音が響きわたることは祖父(三宅小三郎)も喜んでくれると思います。

たくさんの方に烏城紬を愛してもらい、やがて後継者が育ち、技術が伝えられていくことを願っています。

岡西公民館、灘崎公民館で講師をされている 須本雅子さん



一家に一枚「興除小唄」

「興除小唄」

興除という私たちのまちの名は、人の為になることをなし、害になることを退けるという意味の「興利除害」という漢語がもとになっています。干拓地で乏しい水環境の下、中でもとりわけ水の必要な農業を営んだ私たちの祖先は、仲間同士、相互の助けがなければ、とても乗り越えられなかったと思われます。

昭和初期、住民が中心になって作られた「興除小唄」という歌がありますが、近年、祭りなどで踊られることもなくなっていました。歌詞の1～4番で村の四季と日々の生活を、5番で地域の絆が歌い上げられています。

公民館の呼びかけで、「興除小唄」復活の取組みを開始しました。

踊りやすい振付けを考え、踊り手を養成し、歌は地域在住の歌手さんをお願いしました。さらに若い世代向きにはNPOの協力の下に、ロックバージョンも完成しました。

より多くの世代に知ってもらおうと、踊りと歌をDVD/CDのセットにして、地域の団体や小中学校で活用していただいています。

興除公民館 p42 map 11



写真提供：山陽新聞社

地域の遺産 風景・食・文化

「操南地域遺産プロジェクト」

干拓地特有の文化をもつ私たちのまち。住民の方々に、地域の自然の素晴らしさや、歴史や環境や文化の豊かさ、ふるりの幸などを再発見していただきたいという願いを込めて、

☆地域の自慢の風景写真を募集→選考→操南八景を決定する。

☆地域の方々の手による地元文化の掘り起こし

☆あまり味わう機会のない郷土料理の再現 など

こうしたワークショップを地域遺産プロジェクトとして併行して行っています。

地域への関心があまりもたれなくなっている現在、まずは自分のまちを知ることから、動くことから始めて、地域の豊かさをあらためて考えようという試みです。

操南公民館 p42 map 20



歴史とビデオと語り部たち

「映像で伝える藤田の魅力(地域ビデオづくり)」

児島湾岸のほかの地域と同様、干拓による農業地帯として生まれた私たちのまち藤田。「県南の穀倉地帯」とも呼ばれ、長く岡山の食を支えてきました。

干拓地という特性と農業、その中で特に「水」に注目して、地域がどのように生まれ、先人がどのような文化を形成してきたかを、何とか子どもたちに伝えたいと、公民館ビデオクラブが映像作品を製作しました。

完成後は、各小学校へ寄贈し、文化祭などの行事では上映会が行われました。

また、「語り部」クラブのボランティアが、各小学校等に出向き、紙芝居を使って、先人の知恵と伝統を、今に語り継いでいます。

藤田公民館 p42 map ②



まちの宝を撮る

「地域紹介ビデオづくり」



富山には、知る人ぞ知る、史跡、人物、史実など、まちの宝とも呼べる多くの財産があります。残念なことに、若い世代、特に小学生には、ほとんど伝えられる機会がありませんでした。

そこで、公民館ビデオクラブのメンバーが、これを取材、撮影、編集し、子どもたちにも分かる作品として記録する活動を始めました。

取材の中で、新しい発見があり、出会った人々との間に沢山のつながりもでき、「宝」はますます増えていきます。

現在までに14本が完成し、小中学校、地域の行事における上映や、映像コンテストへのエントリーなど、発表の場をどんどん広げていこうとしています。

富山公民館 p42 map 26



わがまち通信

「こうほくESD通信」

私たちの地域は市街地と山間部、双方の顔をもちます。山間部は過疎化が進んでいますが、市街地は、転入、転出など人の動きが多く、「わがまち」といった全体としての共同体意識は芽生えにくい事情があります。そこで、町内会ごとに座談会を開き、まちの今、伝統文化や行事、歴史、各種の活動などについて、日頃の考えを話し合う場に行っています。この内容を記事にして、月一回、ESD通信として発行しているのですが、このESD通信がそれぞれの地域で自分のまちの課題をみつけ、他の地域の工夫を学び合うキッカケになっているようです。また、世代間の考え方の違いを確認する、良い機会にもなるといえそうです。

北公民館 p42 map 5



子どもから大人まで関われる演劇で、多くの人とつながるきっかけに

演劇は、演技・歌・踊り・音楽・照明・衣装・舞台美術等からなる総合芸術です。また、観劇を含め、子どもから大人まで関われる貴重なツールで、少人数でもできますし、自由な世界観があるので、複数のグループと一緒に作品を創ることもできます。全国に沢山ある公民館で劇団が立ち上げられたらいいなあと思いますし、いつかそのつながりでおっけいおっけい晴れ舞台を地球のどこかでみんなで仲良く踏めたらいいと思います。

京山公民館で生まれた「劇団公民館京山」は、ESDの理念に共感し、自然の美しさや楽しさを作品に込めて、喜びと感動を躍動感あふれる形でみなさまにプレゼントできるよう、「やればできる」「つながるねがい」を合言葉に多方面の方々の支援を受け豊かに成長しています。

京山公民館で活動している
劇団公民館 京山のみなさん



ESDに
参加して!

都市に暮らす

昭和の始めには、日本の人口の9割は農村で暮らしていましたが、今では都市に暮らしています。都市は便利に発達しましたが、多くの資源とエネルギーを消費し、多くのごみを排出しています。このようなシステムはいつまでも続けられるでしょうか。高齢化も一気に進んでいます。都市では、隣に住んでいる人を知らなくても生きていけます。でも、誰でも年をとって弱くなります。災害も起きるかもしれません。私たちが自由で便利だと思ってつくってきた社会のあり方を見直す時期かもしれません。



緑と土の再生作戦！

「堆肥作りによる土壌のリサイクルと緑化推進」

中心市街地にある一戸建ての家で庭の樹木を管理するのは大変になってきています。伐採した木や枝、落葉などは家庭で処理できないため、ゴミとして捨てる家庭が増えているのです。

旭公民館も同様で、公民館の庭には様々な種類の木が植えられており、今までは手入れを外部に委託していました。

この枝葉を捨ててしまうのではなく、堆肥として利用する取組みと、家庭で不要になったプランターや鉢物の土を受け入れ、庭土として再生させる取組みを地域の方々と共に始めました。

また、不要になった観葉植物や住民が育てた花卉や樹木の苗・種などを頒布・交換して「地域を緑いっぱい！」を合言葉に、環境を考えるきっかけとしています。

子どもたちを対象に、伐採した樹木を利用する工作教室や、昆虫の食草を育てたり、植物調査で木に名札をつけたりして、植生や多様性について学び、生き物の大きなつながりを考えていこうと思います。

旭公民館 p42 map ①



ちよこっと考えようよ、豊かな暮らし

「わくわく天然生活」



東日本大震災以降、これまで当たり前だと思っていた安全・安心がもろくも崩れ、エネルギーや食などについての関心が高まっています。

一人一人が環境について関心を持ち、暮らしの中でできることを実践していくことが、環境問題の解決に少しでもつながると考え、講座を始めました。

とりわけ関心が高まっている、原子力発電をはじめとするエネルギーの問題、大量に廃棄されたり多量の農薬を使用して栽培した野菜などの食の問題、化学製品でできた手軽で安価な建築材料など、便利さだけを追求してきた今までのライフスタイルの問題点を、様々な角度から検証し、日本の気候風土に合った地球環境にもやさしい生活を、今一度

見直すきっかけづくりとなっています。

これまでの社会の変化を学びながら、まず自分が出来ること、次の世代や周囲の人にそれを伝えていくことを目指しながら、自分の頭で考えられる人を増やしていきたいと思っています。

中央公民館 p42 map ②



素朴に、スローに

「シンプル・エコ講座」



私たちの暮らしが、実は地球規模の環境問題ともつながっていることを日常生活で意識することは多くありません。そこで、日常の食生活の中から、自給率やフードマイレージについて考えたり、新聞バックをおしゃれに作る中で、レジ袋と石油の関係や多くの日本人が使っていた「風呂敷」について考えたりしました。

一人一人の力は小さいけれど、これまでの社会の変化を知った上で、私たちはこれからどう暮らしていくのかを考え、もっと仲間を増やしながら取り組んでいきたいと思っています。

岡南公民館 p42 map ②



ここにも緑の下の力持ち ITボランティア

私がITボランティアになるきっかけは、退職後の余暇活動のひとつとして、旭東公民館でのパソコン教室の指導に参加したことでした。10年を経過した今日、会員数も増え、同世代の方たちを中心に共に学ぶ教室に成長しました。高齢化社会が進む中で、高齢者がICTの中核を成すパソコンに触れる機会を促進し、生きがいのあるネットワーク作りを協力していきたいと思って活動しています。

その活動がさらに広がり、各公民館で活動しているITボランティアで「公民館ITボランティア連絡会」を立ち上げ、研修会の開催や各種イベントに参加しています。秋に開催される「わくわく子どもまつりin岡山ドーム」では、楽しみながらIT教育の体験ができるブースを出し、「新成人のつどい」でも写真撮影・印刷等の協力を通じて、ボランティアのスキルアップと地域一体化作を実践しています。

※ICT…Information and Communication Technology の略で 人と人、人とモノを結ぶコミュニケーションのための技術のこと。

岡山市公民館で活動している 岡山市公民館ITボランティア連絡会のみなさん

ESDに
参加して!

